

## 東海沖 Outer Ridge の地質構造 (抄)

桜井 操 ・ 佐藤任弘  
 海洋研究室 測量課

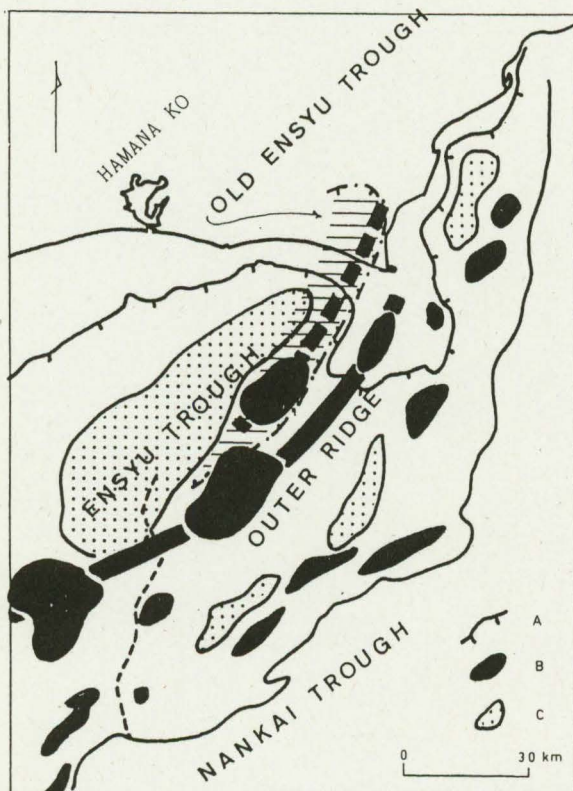
Geological Structure of the Outer Ridge off Tokai District

By

Misao Sakurai : Marine Research Laboratory

Takahiro Sato : Surveying Division

東海地域海底の地殻構造を明らかにすることは、東海地震の長期的予知にとって最も基本的な問題の一つである。海上保安庁水路部は昭和49年から54年にかけて当地域の大陸棚及び沿岸の海の基本図測量を実施し、昭和55～56年には科学技術振興調整費による「フィリピン海プレート北端部の地震テクトニクスに関する特定総合研究」の一環として、マルチチャンネル反射法音波探査を行った。本研究は駿河トラフ・南海トラフ周辺海域の地質構造の研究及び前述した特定総合研究の一環として実施した。詳細は水路部研究報告第18号に掲載される。



第1図 東海沖 Outer Ridge 及び堆積盆地  
 (Ensyu Trough-仮称)の陸側への移動  
 A:大陸棚外縁 B:堆・海丘 C:舟状海盆

## 1. 概 要

中部日本の東海沖の大陸斜面には南海・駿河トラフに並走して Outer Ridge が知られている。音波探査断面からみた Outer Ridge の地質構造は、Seely 及び Dickieson (1977) が報告した forearc model の Structural High との間に 顕著な共通点が見られる。主な共通点は次のとおりである。

1. 熊野舟状海盆沖の Outer Ridge は Subduction Complex の陸側への押し込みによって形成された隆起帯であり、遠州舟状海盆沖の Outer Ridge も同じ構造が推論される。
2. Outer Ridge の陸側にある熊野舟状海盆では堆積盆地の陸側移動が起っている。
3. 遠州舟状海盆沖の Outer Ridge の陸側には sub-Outer Ridge の隆起が見られ、Outer Ridge の陸側移動を示唆している。

この結果、駿河トラフ南部や御前崎北方の相良にのびる Outer Ridge は、後期中新世以降活発化した伊豆半島 (フィリピン海プレート) の北進～北西進、及び沈み込みによって形成されたことを推論した。